

平成14年度 地域との連携の中で職業観の育成およびボランティア精神の効用を図る
体験活動

宮崎県立小林商業高等学校

はじめに

本年度は2学年を中心として下記に示すような計画を立案した。ボランティア活動やインターンシップの推進等、地域との連携を模索しながら実践しているところである。その中から、現在までに実践した活動について報告したい。

平成14年度 豊かな体験活動推進事業に関わる実施計画

期 日	担当(分掌・係)	活 動 内 容	備 考
6月26日(水)	生徒指導部	ボランティア体験活動 校区内各施設でのボランティア活動	全校生徒 1日 累積...1日
7月9日(火)~1 1日(木)	商業科 2学年	インターンシップ 校区内企業における職業体験	2年生 3日 累積...4日
7月18日(木)	2学年 生徒指導部	勤労体験活動 校区内の美化活動	2年生 0.5日 累積...4.5日
8月5日(月)	環境美化部 生徒指導部	勤労体験活動 校区内の美化活動	全校生徒 0.5日 累積...5日
8月21日(水)	生徒指導部 環境美化部	勤労体験活動 校区内の美化活動	全校生徒 0.5日 累積...5.5日
10月31日(木)	2学年	八幡原祭(文化祭) 地域児童とのふれあい体験活動	2年生 0.5日 累積...6日
12月20日(金)	生徒指導部	勤労体験活動 校区内の美化活動	全校生徒 0.5日 累積...6.5日
3月20日(木)	環境美化部 2学年	勤労体験活動 校区内の美化活動	1・2年生 0.5日 累積...7日

1 ボランティア体験活動(平成14年6月26日実施)

(1) 概要

校区内(2市3町1村)の保育園・幼稚園・養護施設等を訪問し、ボランティア活動を行う。生徒の訪問先は、出身中学校・小学校区をもとに振り分け、自宅から近い所で活動する。部活動と同様の、学年を越えた活動である。活動内容は該当施設の方と相談の上、適宜決定する。訪問先との連絡は生徒が行う。自主性・積極性を養うことと、対外的な交渉を実践することを目的としている。

(2) 具体的な事例

ここでは、小林市内のN保育園での活動内容を取り上げたい。

訪問する生徒は1年生~3年生までの9名。事前の打ち合わせは責任者を中心に行った。担当職員はあくまで補助を行うだけである。

当日は現地に集合。園長先生以下、職員と挨拶を行ったあと、早速活動に入る。午前中の活動内容は、除草作業の後、園児との遊戯である。物珍しさもあってか、園児の方から生徒に接触を求め、踊りや駆けっこなどで楽しく遊んでいた。

昼食の配膳も行った。生徒の分も園の方で準備をしてくださった。

昼寝の時間に園周辺の排水溝の清掃を行い、この日の活動は終わった。感想文を記入し、現地で解散。

後日、受け入れ先に感想文・お礼状をお送りした。

(3) 評価および成果と課題

この活動は生徒指導部が中心となって数年来実施してきており、受け入れ先との連携はスムーズであった。生徒の感想文でも、ボランティアに関する意義を再認識したものが多かった。自身がお世話になった先生との再会を喜んでいる生徒もいた。後日、園の方での夏祭り等に訪れるなどの交流もあったようである。

また、ねらいのひとつでもある学年を越えて生徒同士が交わりを持つ意味でも思った以上の学年間交流が見られた。

課題としては、日常的に交流をすることが難しく、一過性の活動となってしまう例も多いことである。特に、各施設と学校との連携を深めていくことが今後ますます重要になる。

2 インターンシップ(平成14年7月9日～7月11日実施)

(1) 概要

2年生が3日間、地域の企業で職業体験をする。実社会での体験を通して職業観や勤労観を養い、将来職業人となるにあたっての自主性や責任感を身に付けることを目的としている。

実習時間も受け入れ先の企業の勤務時間として、出来る限り実社会の勤労体系を体験できるように計画している。

期間中は職員も授業の空き時間等に担当の企業を訪問し、生徒の状況を見る。

(2) 事前指導

商業科と2学年の職員が事前に地域の企業を回り、受け入れを依頼した。何年も受け入れてくださっている企業も多く、地域の理解も深い。

生徒に対しては学年集会を3回ほど実施して、インターンシップの意義や活動に対する心構え等を繰り返し強調し、地域企業に対する感謝を持つよう指導した。

(3) 企業での実習

実習期間は、生徒は受け入れ企業に直接「出勤」し、実習に取り組むことになる。出勤時間も企業側の指示に従う。具体的な例をいくつか紹介する。

結婚式場(小林市)～〔生徒13名が実習〕

生徒は、厨房に飲み物や食材を運んだり、机や椅子の撤収をしたりした。また、生徒はテーブルクロスの変更やアイロンがけ、窓ガラスを拭くなどの仕事を行った。結婚式場という華やかなイメージの企業でも、力仕事や清掃などの地道な仕事が必要であることを再認識した様子であった。

スーパーマーケット(野尻町)～〔生徒5名が実習〕

生徒は商品を棚に運んだり、並びが乱れた商品を並べ直したりする仕事が多かったようである。生徒は荷押し車でかなり重いものも必死で運んでいた。

さすがにレジなどで現金を扱うことはなかったようであるが、店内にお客さんが見えたときに元気に「いらっしゃいませ」と声を掛けている生徒の姿が印象に残った。

(4) 事後指導と評価および成果と課題

感想文とお礼状を記入し、受け入れ先の企業に送る。お礼状の記入に関しては、基本的な手紙の書き方なども含めて指導した。

本校では長期休業期間のアルバイトを認めるが、インターンシップ期間中に働いた企業で夏休みにアルバイトをする生徒もいた。過去には、この活動が縁で就職をした生徒もいて、地域との連携を図る意味でも意義があると考えている。

ねらいである職業観の育成は、この体験が非常に生徒を啓発できていると思う。進路に関するLHRなどをして、継続的に職業意識を刺激していきたい。このように進路意識を高揚させることが、不況の続く昨今の経済情勢において重要であると考えている。

3 勤労体験活動(平成14年7月18日・8月5日・8月21日実施)

(1) 概要

年間5回、学校内および周辺地域の美化活動である。クラス別に担当区域を振分けて担任・副担任・副々担任が指導してゴミ拾いなどの活動を行う。

(2) 実施について

7月18日は2年生のみの実施であった。1学期の終業直前で、学校内の清掃を分担したクラスもあって、地域の多くを回ることが出来なかった。

8月5日・21日は夏季休業中の登校日の午前中に実施したものである。美化活動を担当する場所については、従来からの区域に加えて学校支援委員会の方の助言等もいただきながら検討し、選定した。主な活動区域としては小林駅や学校周辺の公園・墓地などであった。

生徒・職員ともにゴミ袋をもってゴミを拾いながら活動区域と学校の間を往来する。集めたゴミは、種類別に自分たちであらためて分別をしていく。燃えるもの・燃えないもの・資源ゴミ・その他の粗大ゴミと、小林市は細かく厳しく分別しなければならない。空き缶はスチール缶・アルミ缶に当然分けるし、ビンもラベルを剥げるものは剥ぎ取って色別に分ける。中を水洗いすることは言うまでもない。ゴミを集めたあとの作業の方が大変な程である。これを各クラスで最後まで行うが、その分かえて充実感が残ったようである。

(3) 評価および成果と課題

年間に6回実施するので、単調になる可能性が高い。クラスごとの担当区域を毎回変えるようにしているが、作業内容自体は大差ない。しかし生徒は清掃をしっかりと行った。また、多くの区域の清掃をすることで、学校周辺の地域をみるという副次的な効果は毎回感じられるところである。

地域の清掃をしてゴミの多さを実感することは、校内の美化意識を高める上でも意味があると思う。ゴミを分別する意識の向上にも役立っているのではないかと。実際、この活動の後は校内もきれいになる。

ただ、長続きがしないきらいがあるので、日常的な省ゴミ意識や環境を大切にすることを高められるようにしたい。

4 八幡原祭(本校文化祭)(平成14年10月31日・11月1日)

(1) 概要

文化祭2日目(11月1日)クラス展示の日に、近辺の幼稚園・保育園に招待状を出して見学に来ていただいている。今年度は1年2組と2年2組が園児向け

の展示を行ったので、そこが中心となった。

6月にはボランティアなどで受け入れをしていただいていることもあり、生徒たちも園の訪問を歓迎した。

(2) 当日の様子

午前10時ごろに訪問を受けた。主に当該学級の生徒・担任の方で対応した。

1年2組では機関車のキャラクターの張り子を展示した。また、同じく機関車のキャラクターを印刷して、園児と生徒とが一緒にぬり絵する企画も実施した。

2年2組の方は、「おとぎの国」を展示した。段ボールを組み合わせて小さな子供が中に入れるくらいの「お菓子の家」を作ったり、森に見立てて段ボール製の木を並べたりの手込んだ展示である。また、生徒の何人かは白雪姫の小人の扮装で園児を喜ばせたり、VTRを流して園児と一緒に見たりしていた。

午前中の訪問で、学校内すべてを見ていただくことが出来なかったのが残念ではあったが、6月のボランティア体験活動の際に顔見知りになっていた園児と生徒もいて、和気藹々とした雰囲気であうことが出来たようである。

(3) 評価および成果と課題

保育園の引率の先生方にアンケートを依頼したところ、概ね好評であった。要望として挙げられた点もあるが、否定的なご意見ではなく、もっとこうして欲しいというものが多かった。例えば、小人の扮装でちょっとした劇をしたらどうか、などである。園児の反応もよく、生徒とのふれあい活動というねらいは達せられたものと思う。

ただ、時間的な制約もあって学校の文化祭全体をみていただくことが出来なかったことや、交流できるところが担当クラスに限定されてしまうことが残念な点ではあった。とはいえ、文化祭のなかで何らかの交流を図るというねらいは十分に成功したと言ってもよく、来年度以降も何らかの形でこうした活動は続けていきたいと考えているところである。

おわりに

この事業を実施するに当たって「地域との連携をはかる」視点をより強く意識するようになったことである。同時に、これまでの学校行事も地域の理解・協力を支えられてきたことをあらためて感じた次第である。

次に、最初の頁の表にあるように、各校務分掌が中心となって実施してきた行事を、推進事業のなかに位置づけていくことで、より一貫性をもって学校行事を実施できた。言い換えれば、職員の共通理解の度がより深くなったということである。

課題としては、地域内の他の学校との連携を今後どう深めていくかである。来年度は地域内の小・中学校や高等学校との連携しつつ、より地域に密着した本事業の在り方を研究したい。